下懸（しもかけ）遺跡

所　在　地　安城市小川町
(北緯34度54分20秒 東経137度05分43秒)

調 査 理 由　床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成26年5月～平成26年6月

調 査 面 積　210 ㎡

担　当　者　酒井俊彦

調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は一般河川鹿乗川改修工事に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成 12、21 年度と昨年度に鹿乗川導水路の東側と導水路と鹿乗川間の調査を行っている。今回を含めた総調査総面積は 7900 ㎡である。今年度は、導水路東側の調査を行った。

立地と環境　本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成 12 年度より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の 5 遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。中世以前の鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、本遺跡及び姫下、惣作、寄島で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧鹿乗川の自然堤防上に展開し、標高は 5 ～ 6m である。これまでの調査では弥生時代、古墳時代前期、古代および中世の遺構、遺物が検出されている。また、北西から南東方向に流下する古墳時代以前の旧河道が確認され、古墳時代前半の土器と木製品が出土している。

調査の概要　今年度の調査区は平成 21 年度および昨年度の調査範囲の未調査部分と昨年度の調査区の北に隣接した部分である。調査は前者に A・B、後者に C・D の 4 調査区を設定し、上下 2 面の調査を行った。上面は中世～近世の耕作土層下の古墳時代包含層である黒褐色土層面と部分的に基盤である灰色シルト面で遺構検出を行った。上面では遺構は検出されなかった。下面は基盤の灰色シルト層面で遺構を検出した。主な遺構として、古墳時代の溝群及び小土坑が検出された。溝群は幅 40cm、深さ 20cm 程度の溝が数条が平行して走り、当遺跡と北の寄島遺跡で認められる特徴的なものである。また、B 区で幅 3m で深さ 20cm ほどの東西方向の溝 1 条を確認した。平行して走る溝群の溝の遺物は極少量である。後者の溝はいままでの調査では見られない特徴のもので、古墳時代前半の土師器壺、甕、高杯が出土した。また、B 区で同時期の竪穴建物らしい落ち込みが検出されたが、撹乱によって大部分消失しているため確認できなかった。

ま と め　今年度の調査区 14C・14D は遺跡の北端である。調査の結果、少数の土坑のみが検出され、竪穴建物や掘立柱建物などの遺構は検出されず、集落域外であることが確認された。今後はこれまでの調査成果を踏まえ、北に隣接する寄島遺跡の関連性を検討することが課題である。

（酒井俊彦）

Ｄ区遺構完掘状況（北より）

Ｃ区遺構完掘状況（南より）

Ａ・Ｂ区遺構完掘状況（北より）

調査区全景（南より）

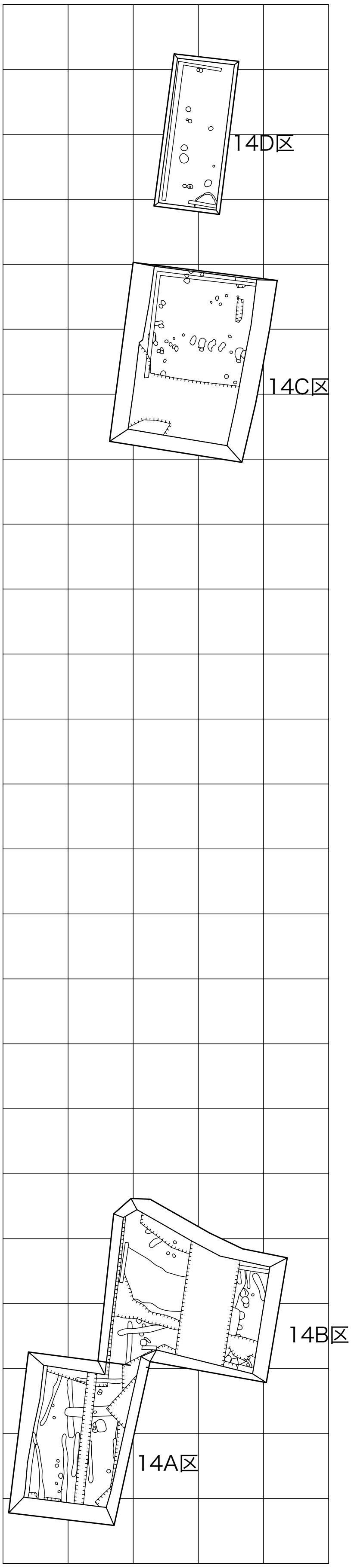

図１　遺構全体図（1:500）